

[nozaki_31]

活動タイトル	シリーズ「地球温暖化」2020 - 2021 第2回 異常気象と温暖化について
実施日	2020年8月22日
場所	(苫小牧市)
対象数	10人
内容	<p>第2回目は、異常気象と温暖化について、IPCC第5次評価報告書で示された最悪のシナリオでの気候予測を引用して、室蘭地方気象台及び札幌管区気象台が作成した冊子を活用しました。</p> <p>21世紀末の気候は、これから未来を担う人類や動植物には甚大な影響があることを強く訴えました。身近な事例として、以前の夏に見られた霧が減ってきていること、ハエがいなくなったことを指摘。こういった変化にも気候変動が影響している可能性があることをお話しました。また、「北海道では梅雨がない」と言われてきていましたが、温暖化の進行により、7月に北海道で起こる長雨も梅雨と似ていることから、北海道も梅雨の時期があるような気候に変わってきていることも知ったようです。</p> <p>異常気象は、単なる気候変動にとどまることなく、農作物、漁獲物など、私たちの食生活にもかかわることから、細かな変化にも注視しながら生活することの大切さも説明しました。</p> <p>参考資料：2019年3月発行『21世紀末の胆振地方の気候 －地球温暖化が最も進行する場合の気温・雨・雪の将来予測－』</p>
実施写真等	